

広土会新聞

第15号

2011.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

巻頭言「新たな取り組み」



広土会会長
島 重章

広土会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶びを申し上げます。今年も新たな卒業生を100%就職達成の中で送り出すことができました。併せて、彼らが新たな広土会のメンバーとなって活躍してくれることを期待しています。

さて、これまでの日本経済の成長を牽引してきた土木界は、激動する日本社会の中にあって、社会資本整備への充足感と公共事業への批判が高まる中で、会員の皆様の多くが先の見えない立ちを覚えておられるのが現状ではないでしょうか。私たちの周りの社会資本は、在って当たり前の世の中を構築して充足率を見せてきましたが、情報の世の中においてPR効果の無いものは忘れ去られることの危惧さえ覚えることがあります。

大学へ入学する18才人口の低減は大学入試へ大きく影響し、高校訪問の機会を重ねるごとに土木に対する建設希望者の無知を感じざるを得ません。社会資本整備が、残念ながら若者たちの目に触れることのない構造物ではなかったかと、考えさせられることが多々あり、若者たちが魅力を感じることでできる土木界が今後どのように形作られるのか、これからの大きな課題であると思われまます。

私は日曜日になると、極楽寺山の中腹にある見晴らし公園へ犬をお供に出かけます。野鳥観測のグループと親しくなったり、山林の空気を吸って雑木を整備する楽しみを見つたりしております。これはある意味では贅沢な楽しみでもあります。海外の状況をTVを通して見ましたが、イスラム諸国の子供たちに絵をかかせる、日本の子供たちとは異なり山や大地を褐色に描くそうです。それが当たり前のことだからです。最近はそのような国に仕事で出かけられる

会員も多々おられることと思いますが、そういう国に長くいて、日本列島を空から眺めた時の驚きは、安心と安らぎを覚えずにはおれません。それほど日本という国土は水と緑に恵まれた国ということです。

しかしながら、その緑豊かな国土にも多くの問題を抱えていることは、皆さまもご存知のことと存じます。平成23年の1月末から噴出が始まった新燃岳の噴火は、噴煙の大きさが普賢岳噴火以上の規模で発生し、近づくことすらできない状況です。日本の国土は、その位置、地形、地質、気象などの自然条件から、地震、台風、豪雨、火山噴火などによる災害が発生しやすい国土となっています。世界全体に占める日本の災害発生年間割合は、マグニチュード6以上の地震回数が22.9%、活火山数7.1%、死者数0.5%、災害被害額16.0%など、世界の0.25%の国土面積に比して、非常に高くなっています。

そんな中で、いつものように私たちの生活は以前から営まれ続けてきました。春になると山林の整備をした木々の周りは、桜の花を楽しむ人たちで賑やかになることでしょう。それも過ぎるとまた雑草との戦いが始まります。最近地球温暖化の影響か、日本列島が亜熱帯化し始めているのか、雑草の勢いが激しく成長して、去年はそのままに残った雑草が冬を越しているようで、雑草の勢いが以前よりも増しているようです。このまま何年も経過した山体は風化が進み、中国地方の沿岸部に見られる高木の無い山体が増えてくるでしょう。

私たちの目に見えない現象が、この世の中には多く存在します。自然が創ったもの、私たち人類が造ったものは、共通して風化、劣化という変形過程を経て変化していきます。この過程で発生する現象の一つが災害です。この過程を明らかにするには予知、予測の技術が必要です。この技術は不確実性が伴うために、未だ開発途上といわざるを得ません。しかしながら、我が国の災害は毎年多発して、多くの人的物的損失を与え続けています。土木の技術はこのような現象にも立ち向かっているのです。土木学

会誌の2011年2月号には、「目に見えないものを可視化する」という特集が掲載されました。その書き出しには、近年のソフトウェアならびにハードウェアの発達に伴い、これまでは目にするのが不可能とされてきたものを、数値計算や様々な検査手法によって可視化することができるようになってきた、と記載されています。また、可視化技術は複雑に入りこんだ実世界の現象の把握においては不可欠であることに疑いの余地はない、と表現しています。

この企画の趣旨を少しく抜粋すると、土木工学が対象とするものは主として巨大であり、人命を預かる物も少なくはない。例えば構造物内部に発生する応力分布や構造物に作用する外力を可視化することで、技術者は現象の支配機構の理解を促し、より安全な構造物の設計に反映できる、と記載しています。土木の分野でもこの可視化技術が進展することの必要性を説いています。さらには、この構造物は安全であるということを一般市民に分かりやすく説明でき、理解を得やすくなるという意義は大きい、とも紹介しています。

日本の進展は技術力であると多くの人々が唱えていますが、これまでに取り組んできた技術力の偉大さを更に後世に伝えるためには、その技術の素晴らしさと共に、一般市民が理解できる技術力を、そして安全で安心して生活できる技術力を継続していくことの必要性が期待されています。技術の進展は新たな取り組みから始まります。発想の転換という取り組み方、もっと柔軟に他の分野と協調を図る取り組み方など、一般の市民、特に若い人たちをひきつけ得る魅力あふれる土木技術に変身することが、更に必要ではないかと考えています。

終わりにになりましたが、広土会会員の皆さまのますますのご発展とご健勝を祈念いたしますと共に、今後とも、広土会へのますますのご協力とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ラグビー場 & サッカー場（人工芝による整備予定）



26号館 & テニスコート

新任のあいさつ



広島工大に着任するにあたって

都市デザイン工学科
都市建設工学科（併任）
准教授 石垣 衛

2010年4月1日に広島工業大学に着任致しました石垣 衛（いしがき まもる）と申します。専攻は『生態系工学』、『海岸工学』で、自然環境保全・再生を目的とした土木技術の開発と評価を行っています。着任前は株式会社大林組に21年間勤務し、主に、都市圏を抱える臨海部の自然再生事業に携わってきました。大林組在籍中には、数々の土木事業を通じて、業界の辛さや苦しみを体験するとともに、事業を成し遂げた時の喜びを教えて頂きました。これらの体験を活かしながら、土木技術者を志す後輩たちを育てるべく、広島工業大学にて教鞭を取り、奮闘する覚悟でこの地に着任致しました。

広島とは縁があり、平成9年～平成13年までの5年間に、呉市にありました産業技術総合研究所（旧中国工業技術研究所）に外部研究員（共同研究者）として在籍し、瀬戸内海の実環境再生を目的とした技術の開発を行ってきました。当時は、月曜日に会社が所在した東京での会議に出席した後、その日の晩に呉に入り、土曜の朝に東京に戻るといふ、繰り返しの生活（規則正しい生活？）を送りました。その結果、呉に馴染むことで、呉の方々とは今でも研究以外に私生活でも交流があります。

また、広島では海の実環境について様々な教養を頂きました。ちょっと昔まで、この地に生きる人々は海からの恩恵を授かり、海に親しみながら、海と共に生きる生活を大切にしてきました。時代が経済発展重視へと変化する中で、人々の暮らしも海から離れつつあり、都市圏の海は埋立てとともに、水の透明感は失われ、海底はヘドロまみれとなり、魚も貝も棲みにくくなる場と化し、都市の吐き溜めへと変わり果てようとしています。このような都市臨海部に再び、多くの生き物が棲み、人々が海との関係を取り戻せる『自然と共生する都市臨海部の再生』が石垣研究室のテーマです。

今年度は、研究室に土木技術者を志す8人の学生が配属されました。この若き土木技術者の卵とともに、海洋土木技術と環境評価技術を駆使しながら、社会にダイレクトに使える環境再生技術の研究開発を行いたいと思います。広土会関係者の皆様には、今後ともご指導を頂きながら、広島工業大学の土木工学がますます発展するよう、共に頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

都市デザイン工学科
准教授 伊藤 雅

2010年4月に都市デザイン工学科准教授として着任しました「いとう ただし」と申します。専門は都市地域計画、交通計画です。

出身は鳥取県米子市で、初めて広島に来たのが小学生の時の修学旅行でした。当時はナタリーランドがまだあった頃で、海に飛び出しそうなジェットコースターに乗った思

い出が、今でも印象深く心に残っています。また、大学生のときには学外研修（今でいうインターンシップ）で広島に2週間ほど滞在したこともありましたが、広島には何かと縁を感じているところです。

これまでの研究テーマの1つとして、路面電車に着目した研究を行っています。ドイツにも1年間滞在して、ヨーロッパの路面電車の普及状況をつぶさに見て回りました。中でもフランスでは、いったん廃止した路面電車を復活させ、新たな都市内交通機関として再導入している都市が20都市以上もあります。また、ドイツでは、60以上の都市で既存の路面電車の改良を行い、優先信号や軌道の専用化を図ってスピードアップと定時性の向上を図ったり、鉄道線と相互直通運転を行って路線網を拡張したりと、まさに都市の基幹交通手段として活躍している様を見てきました。

当地広島の実路面電車は、戦禍をくぐり抜け、またモーターリゼーションの荒波にも屈せず活躍しています。グリーンムーバーなどの新型車両が導入されている一方で、市内線ではスピードが遅いなどの問題点も抱えています。今後は広島の実路面電車が、次世代型のスーパーハイクテク路面電車へと脱皮できるような提案や調査研究活動を、学生やOBの皆様方とともに進めていければと思っております。

また、本学に着任する前は、和歌山でローカル線の再生や過疎地域の移動手段の確保に関する取り組みも行っていました。中国地方でも広島市から一歩外に出ると、中山間地が広がり、少子高齢化で移動手段の確保に困っている地域が数多くあります。このような地域の問題にも積極的に関わっていければと考えております。

本学において教育研究活動を行う上では、研究フィールドのご提供や実務上のアドバイスなど、OBの皆様方のご協力を得ながら進めていく場面が多々あるかと存じます。広島工大の歴史を皆様とともに創り上げる気持ちで頑張っていきたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

支部だより



関西支部長を拝命して

関西支部長
川岡 靖司（14期生）

私は昭和57年卒業の川岡です。日本橋梁（株）に勤務して30年目を迎えました。

さて、広土会関西支部では、春に花見、秋に総会を開催して、会員の親睦を深めています。ここ数年、先輩方から「今年で定年です。」とか、「退職して田舎でソバ打ちに



凝っています。」などとお聞きするようになりました。私も50歳を過ぎていきますので、先輩方もそういう時期を迎えられていることも当然かもしれませんが、初めて参加した30年近く前の花見の頃と変わらないイメージがあり（私を含めて）、感慨深いところです。

関西支部長は、平成9年までの約30年を太田さん（1期生）が、その後12年を佐賀さん（2期生）が務められ、佐賀さんの退職を機に平成22年度から私が支部長を引き継ぎました。よろしくお願い致します。

広土会は40年を超える歴史がありますが、それには広島工業大学の黎明期に卒業した先輩方の力が大きいと思います。関西支部でも1期生、2期生にリードして頂いたわけですが、組織を続けていく中で代替わりは致し方なく、代表者がいないと組織自体も成り立たなくなりますので、微力ではありますが3代目の関西支部長をお引き受けしました。歴史ある関西支部を次の世代に橋渡しするのが私の務めと考えています。幸い、片山ストラテック（株）の若手の皆さんが引き続き事務局を務めて頂けるとのこと、とても心強く思っています。私でも、花見や総会での乾杯の音頭ぐらいはとれるでしょう・・・。

写真は、平成22年10月3日に開催した関西支部総会のもので、2期生から42期生まで13名の出席で、例年より参加者が少なく若干寂しいところもありましたが、各自の近況報告を行うなど親睦を深めました。私から、平成22年7月31日に出席した第19回広土会支部長会議の報告に合わせ、当日見学した新講義棟「三宅の森Nexus21」の様子を説明すると、驚きの声ののち、「俺らの頃は、こうだった。」と在学当時の話に花が咲き、出席者の世代間の違いに大いに盛り上がりしました。

関西支部では、4月第一日曜日の「花見（阪急夙川駅前11:00集合）」と秋の「総会」を、今後も続けてまいります。ご参加のほど、よろしくお願い致します。



第二の人生に向かいて

愛媛県支部長
田坂 善長（2期生）

昭和45年（1970年）卒業して今年で満41年経とうとしている、広土会愛媛支部の私達2期生の近況を報告します。

2期生は10人中連絡とれるのが、黒田、渡部、鴻海、鈴木、入山、近藤、私田坂の7名です。黒田、渡部、鴻海、田坂4名の立場はそれぞれ違いますが、そのまま現役で頑張っている（頑張らされている）。現場で若い職員の手元足元でやっている者営業で四国を走っている者、会社全体の指導的立場の者です。でも数年で第二の人生を向かえる人たちは。何をやろうか、何が出来るのか少し不安が先行しているこの頃です。

入山は退職し専門学校を卒業し、それを基礎に新しい事業をやっている。

鈴木、近藤は退職し悠々自適な第二の人生を過ごしている。

皆体力にものを言わして無理をしてきたので、少しは身体を休め点検して、第二の人生に向かってほしい。

ほぼ松山を中心に皆活動しています。どうかいつでも声でも掛けて下さい。（敬語略）

心の映像カタチにします
建設クリエイター

総合建設業



株式会社

栗本

代表取締役社長 古川 幸雄

〒733-0035

広島市西区南観音7丁目14番20号

TEL (082) 293-8500

FAX (082) 295-8231

【営業所】 岩国市・安芸高田市

http://www.kurimoto-gr.co.jp

総合建設業



山陽工業株式会社

SANYO CONSTRUCTION CO. LTD.

広島市中区十日市町1丁目1-9 〒730-0805

TEL(082)-232-6471 FAX(082)291-2233

http://www.landingsanyo.co.jp/

明るく伸びる



株式会社

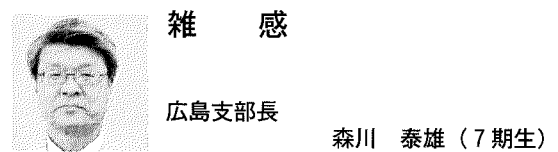
伏光組

代表取締役 伏見光暁

本社 〒734-0013 広島市南区出島1丁目33-61 TEL(082)253-6161

FAX(082)254-4581

支店 松江 営業所 三次・安芸高田・世羅・益田・東広島



雑 感

広島支部長

森川 泰雄（7期生）

会員の皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。最近思うことについて、述べてみたいと思います。

今年はどのような年となるのでしょうか。

政治に関しては、民主党政権となり「コンクリートから人へ」のスローガンのもと、政権2年目を迎えましたが、「ねじれ国会」等で非常に不安定な状況が続いています。

経済的にも、閉塞感が漂う中、長期デフレに入っており、人口減少や少子高齢化、経済活動をはじめとするグローバル化など、これまで経験した事のない大きな変化が進んでおり、今、まさに時代の岐路に立っている状況かと思えます。

閉塞感を打ち破り、新たな成長に向かうためには、「イノベーション」が重要であり、従来の考え方に拘ることなく、新しい切り口、新しい捉え方、新しい活用法などを模索する必要があります。

また、個人の力には限界がありますが、組織が同じ目標に向かって行けば、おおきな力を発揮するものです。いわゆる「組織の総合力」だと思えます。

一方、全国的に、団塊の世代の退職により、組織内部の技術の継承が大きな課題となっているように思えます。また、「技術職員の技術が低下した」など、技術職員に関する記事も目にするようになりました。

簡単に解決策は出ませんが、私は、一つの手法として、「コミュニケーション」を大切にしていこう事だと思います。

以上、とりとめもない事を申し上げましたが、今年の干支である「ウサギ」のように、ぴょんぴょん跳ねて飛躍の年になればと願っています。

最後になりましたが、広土会の益々の発展と会員の皆様方のより一層のご活躍をお祈りいたします。



エジプト感動紀

広島西支部長

サンコーコンサルタント(株)広島支店
宮田 数行（4期生）

小学生の時に漫画で読んだ世界七不思議の一つ「エジプトピラミッドとスフィンクス」を見る機会がありましたのでご報告します。

きっかけは、知り合いの海外ツアー添乗員さんに、「いちばん感動した所は？」と尋ねた答えが「エジプト」だったこともあって行くことにしました。
『不安！』

申し込み後に届いた旅行行程表には、テロに関する渡航注意書も同封されており、1997年ルクソールのハトシェブスト女王葬祭殿テロ銃撃事件を思い出し、不安も感じました。しかし、エジプトの観光地はどこも自動小銃を肩にかけた警察官が警備配置されており、そんな不安など忘れて観光しました。

関西空港からの飛行機は「エジプト航空での次の更新はこの機種」と日本人の機内乗務員が言うほど古いA300。むしろこっちの方が不安でした。

エジプトの印象は、この飛行機のように「古い」「大きい」

そして「汚い」！

『腹痛！』

渡航前から生水はダメと聞いていてペットボトルのミネラル水、1日1ℓ。帰りの機内食の生野菜サラダが原因なのか帰国した夜モーレツな腹痛が。朝早く、休日にも拘わらず隣のお医者さんへ。

旅行中、同じツアー客の数人が運悪く腹痛に遭われました。「日本の薬では効かず、現地の薬局で売っている腹痛薬でない」と効果が無い」とのガイドさんの説明。

親切なガイドさんの措置でツアーを無事継続されました。この「ファラオの呪い」に関しては、ガイドブックにも説明がありますが、特に要注意。

『暑いカラッ！』

アスワンハイダム付近は春なのに40℃の暑さ、服装は軽装、運動靴とサンダル、鳥取砂丘のような砂場ではなく岩場や敷石の上を歩く。日陰はカラッとしていて気温ほどの暑さを感じませんでした。

ナイル川沿いにナツメヤシ、バナナ、サトウキビなどの緑と野菜畑があるだけで、エジプトはどこも岩だらけ。

空から見た砂漠は、緑のない岩がごろごろした山で唱歌「月の砂漠」のようなロマンは全く感じない。授業でサハラ砂漠と習ったが、サハラとは砂漠のことで、砂漠には名はないとのこと。服装は半パンに靴下不要のサンダル（踵の紐があるもの）が軽快でよかった。

『旅のまとめ！』

①飛行機は往復とも韓国、中国、カスピ海そして中東諸国の上空を12時間飛ぶ。

②現地の食事は口卑しい小生でも全く合わなかった。全然口にしないツアー客も。船の夕食バイキングでは、順番を待たない外国旅行団に大敗。

③「ピラミッド」はカイロの街中からも見えるが、いつも黄砂の状況で、ボヤーとしている。ピラミッドの近くにある展望箇所からでも、頂上が見えない時もよくあるとのこと。

④ピラミッドは自由に登れない、内部の見学のために決められたコースを通るだけ。内部は中腰での歩行箇所もあり、足が筋肉痛となった。カメラは撮影禁止の場所も多く、ピラミッド内部見学時は、カメラの持ち込み自体ができない。旅行者が決まり事を守らないので、厳しくなるとガイドさん曰く。

⑤「スフィンクス」はピラミッドに隣接し、街とも隣接している。頭にあったコブラは持ち去られ、鼻は石を投げて欠けたとのことで、遠くからの眺めが良いかも。写真で顔がボヤーとしているのはこれが原因でした。

⑥カイロでの自動車の運転は言い表せない。冷房がないためドアがない自動車が超強引に割り込む。3～4列の自動車列と一緒に、山盛りのサトウキビを背中に積んだロバがトコトコ歩く情景は滑稽でした。

～『エジプト』、5千年前の遺産に出会えて大変感動しました。

小生、広島県庁を昨年3月退職し、現会社に勤務しています。引き続きよろしく願います。



島根県支部長交代

島根県支部長

原 裕美（10期生）

私は昭和53年に広島工業大学土木工学科を卒業しまし

た。当時はオイルショックの影響で就職難の時代でありましたが、大学の先生方のご指導や企業への斡旋などご尽力頂き大方の卒業生は無事就職できました。近年の就職難に比べれば、まだ良い時代だったと言えます。また、当時の公共事業に対する社会情勢は、まだ整備途上であり、特にインフラ整備の必要性が唱えられていました。ところが近年は当時と正反対に、『コンクリートから人へ』などと、公共事業を否定するかの風潮が広まりました。それが国家財政危機の脱却に繋がることもなく、地方格差は広がることになり、ここに来て経済対策としての公共事業も重要であることが再認識され、このことが全国各地で聞かれるようになったと感じています。

さて、私事ですが、学生の頃あまりにものんびりしていたせいか就職できず、研究生として大学に残りました。おかげで学問は当然ですが、『人との繋がり』を勉強させて頂く事ができました。就職先は「のんびりと田舎で」の思いましたが、結果、島根県に就職できたことで、先生方、同輩や後輩からお祝いの言葉を頂いたのがつい先日の事の様です。

最初の赴任地では、幸いにも小糠弘昭先輩（2期）がおられたので心強く、何かとお世話になりました。丁度その年（昭和54年7月）に島根県と鳥取県を対象として広土会山陰支部が設立されましたが、後に地理的時間距離などを考慮し平成7年には島根県支部と鳥取県支部に分けられました。

昭和50年代後半からの山陰支部会は島根県側から10名位が集まっていました。私もよく出席させて頂きましたが、自分がいつも最年少であったこともあり非常にかわいがって頂いたのを覚えています。そのおかげか、次第に多くの方から声を掛けて頂けるようになり、仕事を進める上でも非常に楽になりました。その縁あって島根県支部の発足では、初代小糠弘昭支部長の下で幹事を務めさせて頂きました。

それから、光陰矢の如し。平成16年には世代交代ということで福田滋（6期）先輩が2代目支部長になられました。当時113名の会員でした。その頃の建設業界は厳しい状況になりつつありましたが、それでも毎年開催される支部総会への参加人数はあまり変わることもありませんでした。近年は新しく若い方の参加が見られるようになりました。平成21年8月には、広土会支部長会議を松江市で開催することができ、島根県支部会員の結束がより強くなったように感じました。

これを期に、福田滋支部長から世代交代の声がかかりました。

そのような流れで、昨年11月の広土会島根県支部総会において、不肖私が3代目支部長の重責を拝命したところです。その総会にはご多忙の中、島先生にお出掛け頂き、先生から就職状況をはじめ大学の様子を聞かせて頂きました。また、出席者はお互いの近況を語り合い旧交を温めたのですが、大学、建設業界は益々厳しい状況が続いていることも痛感し不安も覚えたところです。生きるためには不安を取り除かなければなりません、そのための情報交換や人との繋がりが重要であり、それを享受できる場としても島根県支部の活動を活用して頂ければと思いました。

『人との繋がり』学生時代から現在に至るまで先生や先輩が口になれ、そして今、自分も口にする様になりました。今後益々広土会が発展し、この『人との繋がり』が広がることを願いながら、島根県支部長の交代を皆様方にお知らせし、併せてご挨拶に替えさせて頂きます。

洋ようと 伸びのびと 夢をかたちに



洋伸建設株式会社

代表取締役 木森卓史

本 社 〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-1 TEL(082)511-4520
ア-バンビュ-グラントウ7F FAX(082)511-4521

営業所 福山・呉・廿日市・三次・山口・四国・九州
事業所 黒瀬

道路埋設指針 建設大臣認定擁壁

P Cボックスカルバート ザ・ウォール (H=5.0m)



株式会社 マシノ

本 社 〒733-0822 広島市西区康平中1-19-23 (082) 507 - 2757 (代)
東広島営業所 〒739-2312 東広島市豊栄町別府270 (082) 432 - 4132 (代)
福山支店 〒720-0805 福山市御門町2-5-39 (084) 925 - 8855 (代)
山口支店 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1130 (083) 973 - 3533 (代)
山陰支店 〒695-0003 島根県江津市松川町下河戸188 (0855) 55 - 0124 (代)
本 店 〒699-5133 島根県益田市神田町口615 (0856) 25 - 2380 (代)
工 場 広島・江津・益田

 大地と大海が私たちのフィールドです

A O K I 

総 合 建 設 業



株式会社 青木組

代表取締役 瀬 尾 政 彦

本 社 〒722-0035 広島県尾道市土堂二丁目8番14号(青木ビル)
TEL(0848)23-3131(代) FAX(0848)22-8371
東京本店 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町三丁目四番二号
KDX茅場町ビル
TEL(03)3665-9621(代) FAX(03)3665-9622
営 業 所 広島・川崎

2011年度工学部都市デザイン工学科公開講座について

1. 目的

『21世紀』という言葉にかつての少年たちは鉄腕アトムがいる未来都市を思い浮かべ、胸をときめかせたものである。しかし、21世紀も10年目を迎える中で世界は益々の混迷を深めつつあり、地球温暖化とそれともなう異常気象、その結果としての自然災害の多発、人口増にともないやがて発生するであろう食糧危機、都市部と中山間地の格差拡大による社会構造の2極化といった様々な問題が、社会の持続性を脅かしつつある。

広島工業大学工学部都市デザイン工学科では、『持続可能な社会づくり』を理念とし、人間が快適で安全かつ安心に暮らせる社会の創出を目指すなかで『空間情報と設計』、『都市空間とデザイン』、『建造物の設計と施工』、『環境再生と修復』の4つの分野について、先進的な教育・研究を実施している。

本公開講座では、都市デザイン工学科の設立理念に基き、工学部としての技術を基盤とした社会に貢献する教育・研究成果を発信することで、次世代を担う若者に本学の研究・教育の素晴らしさを理解してもらうことを期待する。そのために、若手教育・研究者を中心とした講演会を3回に分けて開催する。

2. 公開講座のテーマ

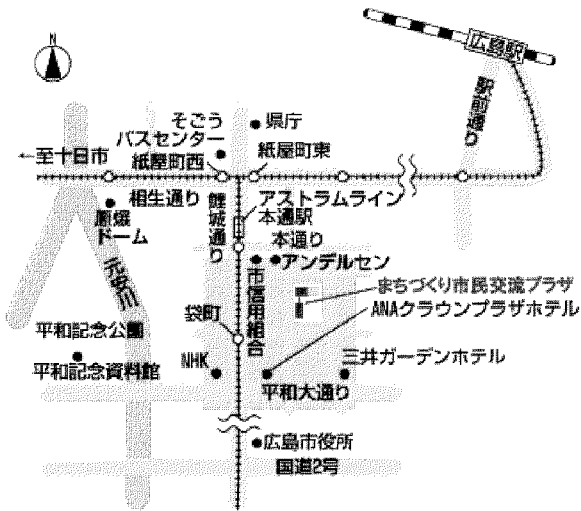
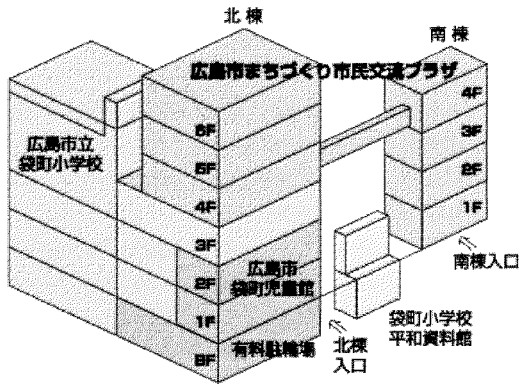
『21世紀を実感できる快適で安全・安心な持続可能な未来社会の構築に向けて』（仮）
— 都市デザイン工学が果たす役割 —

3. 開催日・場所

開催回数	月・日・曜日	時 間	場 所
第1回	5月28日（土）	13:30～16:50	広島市まちづくり市民交流プラザ 〒730-0036
第2回	6月4日（土）		広島市中区袋町6-36 袋町小学校併設 TEL：082-545-3911
第3回	6月11日（土）		FAX：082-545-3838

4. 参加希望者は下記宛にお問い合わせ下さい

広島工業大学 地域連携推進室 TEL：082-921-4222（直通） FAX：082-921-8963
※申込みはFAXにてお願いいたします。



広島工業大学創立50周年記念事業について

◆記念事業の趣旨

- ・創立50年半世紀の節目の年にあって、改めて本学の源流を探り、この間の歩みを誇りに思い、その結果として培われた学風を確認し、「おかげさまで50年」の思いを学生、教職員、卒業生、保護者で共有する機会とする。
- ・技術系人材を育成するという本学に託されている社会的使命を引き続き全うする決意を新たにし、第二半世紀の歩みを始める。
- ・三宅の森Nexus21に続く教育環境の整備を図る機会とする。

◆事業計画の概要

1. 記念式典等の挙行

- (1) 記念式典・講演会
 - ・実施日 平成23年9月17日（土）
 - ・場 所 Nexus21 1F デネブホール
 - ・講 師 大植 英次 氏
- (2) 感謝の会
 - ・実施日 記念式典と同日
 - ・場 所 Nexus21 2F リーフガーデン

2. 記念誌の編集・発行

- (1) テーマ 「原点 そして未来へ」
 - ・総 頁 数 100～130頁／サイズ A4
 - ・制作冊数 2,000冊（配布先等で変更あり）
 - ・配 布 記念式典当日を予定

3. 教育施設の整備

- (1) 50周年記念グラウンド（仮称）
 - ・場 所 現ラグビー場・サッカー場
 - ・内 容 人工芝による整備を基本とし観客席の整備も行う予定
- (2) クラブハウス建設整備
 - ・場 所 旧なぎさ高校 北校舎
 - ・内 容 改修工事による整備を予定

4. 大学ロゴマークと50周年記念キャッチコピーの制定

- (1) 大学ロゴマーク
 - ・趣 旨 建学の精神と教育方針を基礎にし、教育・研究を通じて社会に貢献し、力強く成長していく広島工業大学を視覚的に象徴する。
なお、広島工業大学の学章は、このロゴマークとは別に従来どおり使用していきます。
 - ・用 途 名刺や封筒、ホームページ、パンフレットなど本学発行の資料や刊行物、広報活動に活用する。
 - ・期 間 50周年記念事業期間後も継続的に使用する。
- (2) 50周年記念キャッチコピー
 - ・趣 旨 広島工業大学50周年を記念して、教育・研究意欲の高揚、あるいは勉学意欲の向上をはかる。
 - ・用 途 ホームページやパンフレットなど本学発行の資料や刊行物、様々な広報活動に活用する。
 - ・期 間 50周年記念事業期間（平成23年3月～平成25年3月）

事務局だより

広土会の活動は会員の会費納入で運営されています。会費未納あるいは期限切れの方はこの点を御理解いただき、会費の納入をよろしくお願い致します。また、広土会新聞は会員の情報誌です。皆様からの情報、ご意見、ご感想をお待ちしております。FAX、またはメールでご連絡下さい。

FAX（082）921-8976

E-mail：kodakai@cc.it-hiroshima.ac.jp